

Web コミュニケーションサービスの授業支援への活用事例

中島玲子[†]法政大学キャリアデザイン学部[‡]

1. はじめに

近年、大学教育の場で、授業やゼミ等で学生・教員が情報共有できるグループウェアの導入が広がっている。教材配布、レポート提出、履修者管理、教員からの連絡掲示などが Web 上で行え、授業管理の省力化に有用とされている。しかし実際の導入には組織全体の取り組みが必要であり、導入まで時間がかかる上、使い勝手やコストの面で課題が多い。本稿では、フリーメールなどの Web コミュニケーションサービスの機能を組み合わせ、授業単位での補助ツールとしての活用事例を紹介し、シンプルで低コストな授業支援システムを提案する。

2. 授業支援ツールの設計

2.1. 一般的な授業支援システム

各大学に導入されているシステムは、メーカーのパッケージソフトを一部カスタマイズして使用するケースが一般的である。これらのツールは、Web 履修届や e-ラーニングの個別学習支援機能を備えているものも多く、結果的に機能が多すぎて操作が煩雑となる。導入後は人的リソースの欠如などから十分なサポートが受けられない場合もある。また数年ごとに更改されるために、授業運営や教材を積極的にシステム上に移行するのを嫌う教員もいる。受講生にとっては在学中の限られた期間の使用となるため、授業以外の目的での活用や、データの継続的な蓄積は困難である。

2.2. システム要件

授業支援システムに求められる要件として、以下を想定した。

1. 教員の運営支援

- (1) 受講生の履修名簿管理
- (2) 教材データ配布（時系列に蓄積）
- (3) 課題提出管理および評価
- (4) 連絡（対受講生、クラス内一斉）
- (5) ファイル共有
- (6) グループ学習支援

2. 学生の学習支援

- (1) 教材入手（欠席時も入手可）

- (2) 課題提出（随時可能）

- (3) 連絡（対教員、クラス内一斉）

- (4) ファイル共有

- (5) グループ学習支援

3. その他

- (1) 電子掲示板

- (2) スケジュール管理

上記に加えて、利用やサーバー管理のコストが不要である、パスワードにより個人の ID が管理される、非公開である（公開も選択可能）、ヘルプが充実していることが求められる。

2.3. Web サービスの選定

上記を満たすものとして、Yahoo! JAPAN（以下 Yahoo! という <http://www.yahoo.co.jp>）のグループ機能を選択した。Yahoo! では無料で ID を取得でき、フリーメールアドレスや各種サービスのアカウントとして使用できる。また、個人、グループそれぞれ、メールのほか、データを保存するブリーフケース、ブックマーク、カレンダー、メモ帳などを無料で利用できる。

グループ機能はメーリングリスト（以下 ML という）を中心として、グループの登録メンバー同士でメッセージのやりとり、ファイル共有などの機能がある。グループは ID 保有者であれば、Yahoo! 内に自由に作成できる。ML は一般への公開・非公開を選択でき、メンバー内に限定した環境にできる。ML 投稿はそのまま Yahoo! メールにも送られ、携帯電話での利用も可能である。

3. 実現した機能

Yahoo! のグループ機能を用いて、授業支援ツールとして以下の項目を実現した。対象としたのは図書館司書資格課程の情報関係の科目で、受講者は 40 名前後である。授業は、情報実習教室で行い、授業中は一人一台 PC を使える環境である。

- (1) 受講生の履修名簿管理

教員がグループの管理者となり受講生を一括登録する。初回授業で受講者全員に Yahoo! ID を取得させ、次回までに教員にメールで ID を知らせる。この際補助の必要な受講生も発生するが、基本的

に Yahoo! のヘルプを参照して独自で取得可能である。教員は手作業で ID の抽出登録をするが、別途スクリプト等を用いて作業量の軽減の余地はある。

(2) 教材データ配布（時系列に蓄積）

ブリーフケース機能を用いる。教員は、毎回の授業に教材を準備し、授業の進行に応じ課題などを出題する。授業では紙教材も配布し、同内容を pdf ファイルとしてブリーフケースにアップロードする。ファイルには内容説明をつけられる。グループ全員に説明文とともにアップロードをメール通知する機能もある。

受講生は欠席した場合や紙教材を紛失した場合に各自ブリーフケースからダウンロードできる。課題の文言や URL をコピーするために電子データを利用できる。

(3) 課題提出管理および評価

ML を利用する。投稿件名の統一により、メッセージの検索機能を用いて投稿状況の把握は容易である。厳密に運用するなら教員個人宛に添付ファイルで提出とするべきである。ML での提出は、他のクラスメートの目に触れるためにそれが抑止力となり、さらにお互いの投稿に目を通すことで課題取り組みへの刺激やヒントになっているという効用もある。（剽窃は罪ということを周知徹底する必要はある。）

実際には ML で下書きを投稿し、正式なレポートは紙媒体で提出する運用とした。評価は手作業で Excel ファイルに入力する。

(4) 連絡受講生への個別・一斉連絡

ML およびメールを利用する。受講生の多くは通常の連絡手段を携帯メールに頼っているため、連絡を見落とす場合がある。週に一度は PC を起動してチェックするか、携帯メールで見られるようにする工夫が必要である。

(5) ファイル共有

ブリーフケース機能を用いて自由に共有する。

(6) グループ学習支援

ML、メール、ブリーフケース機能をすべて用いる。ML 投稿件数はグループの活動状況を測る尺度となる。ブリーフケース内に、グループ毎のフォルダを作り、フォルダの中は自由にワークスペースとしてデータを保存し、一元管理する。ブリーフケースはメンバーであれば誰でも改変可能なため、アクセス権の設定など課題は残る。

(7) 電子掲示板

ML 機能で代用する。投稿件名は、課題番号、当日日付などで統一する。受講生は、課題を提出するほか、授業の感想を投稿する。感想は出席確認としても使用できる。質問や提案なども織り込むことができるため、教員対受講生、受講生間の情報共有ができる。投稿の敷居を下げ、横の連携を深めるため、感想の中に雑談の項目も設けた。グ

ループ学習の投稿件名に関しては、各グループの判断に任せるが、投稿をスレッド表示することにより、レスポンス内容や相関関係の把握は比較的容易である。

(8) スケジュール管理

カレンダー機能の共有により可能だが、未実施である。

4. 評価

2005 年度の受講生を対象に、アンケートを行った。回答は 39 名である。設問「ブリーフケース内の授業資料を活用したか」には、肯定 19 名、否定 10 名、無回答 1 名だった。主な目的は「紙資料が手元にない時（紛失含む）」8 名、「欠席時の資料入手」7 名、「課題の出題文のコピー」2 名、「過去資料の参照」2 名で、オンライン資料を活用していることがわかる。設問「ブリーフケースに資料があれば紙の資料配布は不要か」には、否定意見が 32 名と圧倒的に多かった。書込みや携帯しやすさ等の紙媒体の利点と、ネット環境に対する不安が主な理由である。

ML による情報共有に関しては、一度の送信で全員に送信可能である、他のクラスメートの進捗度がわかるなど、ML のポテンシャルは認めるものの、積極的に発信したと答えたのは 9 名にとどまった。

Yahoo! の個人ツールは、ブックマークを半数以上、メモ帳 6 名が活用したと回答した。メディアを持ち歩くことなく、場所にとらわれずネット環境とブラウザがあれば利用できる点の評価が高い。Yahoo! の ID はサービスが続く限り保有できるので、今後もずっと使いたいという意見もあった。

「他の授業でもこうしたツールを使いたいか」という設問には、肯定意見が 26 名、どちらでもないが 11 名、否定意見が 2 名であり、全体的に満足度は高いと思われる。日常的に PC を利用していないと、PC 起動や Yahoo! のログインが面倒という意見もあったが、これは他の授業支援システムにおいても同様の問題がある。一部機能は Yahoo! ケータイサービスを利用することで解決できる。

5. おわりに

無料の Web コミュニケーションサービスを用いた簡単な機能の組み合わせで、自由度の高い授業支援の補助ツールを構築可能であることを示した。

また ML の活用により、単に教材配布や連絡機能だけでなく、受講生同士の横のつながりを助け、グループ学習にも有効であることを示した。

参考文献

1) 小林 智子『オンライン情報共有のための NetCommons の活用事例』「情報の科学と技術」情報科学技術協会, 56(1) [2006] pp14~18